



13
2900
3



門へ 13
號 2900
卷 3

花情 風月

錦の藻初編卷之下

東都

松亭金水編次

昭和九年
七月五日
購

第三回

太田道灌が慕景集鳥小寄る恋のあよせの
あつに鳥もきまのえぬ里もがふ二人ゆる夜のくま
家にせんト詠く持資が恋哥の秀逸さふ庄
ゆく感吟さふふまきとめのみし。羽翠筆今
宵のあふせもさるみしに擬らふべト當下

聖の燈火の。カゲよその男をむけり。私(わたくし)が
 してまゐるこの。とさぞあるまゝの女(をんな)ごと。お多(おほ)ひ
 あさるてございませうが。今夜(こんや)の内(うち)小(こ)私(わたくし)ひさり。
 影(かげ)のよふめつふさひう。それを此(こ)知(し)へまゐるを
 まゝとが。先(ま)刺(さ)りあるの勢(いきほひ)あつた。お言葉(ことば)に
 あつひがあつふ。おとぞ早く(はや)とさまや。母(はは)さま(を)さう
 考(かん)えりて。二人(ふたり)かうし朝(あ)味(あじ)よ。うらとさあへ
 世(よ)のあに。外(ほか)小(こ)移(うつ)ひへ。いません。ついで

負(お)かした。金(かね)なふ。氣(き)も持(も)ちふ。つとわぢうふ
 ざり。と。吾(われ)儕(し)の男(をとこ)の切(き)つた。一旦(いつたん)かうと
 言(い)と口(くち)談(だん)。あつて。跡(あと)引(ひ)れう。大(おほ)き
 めつてゐる。さうさ。思(おも)つた。と。先(ま)刺(さ)
 餘(よ)所(ところ)う。貫(ぬ)つて。肴(さかな)も。す。と。一(いっ)ち。何(なに)か。口(くち)取(と)り。へ。と。
 一(いっ)つ。香(か)で。氣(き)と。さ。う。な。と。火(ひ)鉢(ばち)へ。お。か。か。と。何(なに)か。口(くち)取(と)り。へ。と。
 な。か。より。さ。さ。さ。と。何(なに)か。口(くち)取(と)り。へ。と。何(なに)か。口(くち)取(と)り。へ。と。
 う。ら。みの。鶏(けい)卵(らん)焼(やき)。う。ら。の。ま。い。を。や。友(とも)さ。う。が。腰(こし)も

けぐこー 刻海をよ 誓ぞう 死を 豆腐二人
 一所ふよせ 胡椒。あぢる縁して 今らふ 踏び
 縁のうとさー さも。身にあき 豆 熱相の酒ニッ
 三ッさうつ 歌さる。むら 碇き げんの 今らふ 翠が
 多さた 志あやに 雪より 白き 尻ぎうに。さー
 方紅の 薄さう。花にも まま なる 面く げん。常世
 ふ何とよ 心地して。傍へ 望たよ せ 白あやめ 今らふ
 志縁う あら あいぐ。どふぞ 逢さる 自らとらと。

夕つて 居え 永の 月日 夕く かな 時 時 夕て
 勘しと 逢て ゆうくと。 望しと みる 便と 飲ぶり。
 夕く 深イ 縁 多の やら せ。 夢し 独で くらうくと。
 夕つと 居と せん よりも。 生中 自ら とら せ 下る。 心を
 恋し さま さまー と かなう ごと。 一そ さま 入 秋も 秋と
 今よひ こそ よひ 首尾 目ごら 暮し くらうくと。
 むと。 ああ 夕のお 傍で け かなう に。 夕つて 居くと
 まこと 夕う。 夕つ お 月よ かな 夕中 夕から。 それと

況 魚 初ノ下

むすぶ生中に。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 貴君のお心に入。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 うかひのいぢひ。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 苦勞にあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 けろりと一雷信実と云ふ。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 得ぬいぢひ。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 ぢり。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 て来るといふ。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ

一些ともあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 る苦勞にあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 請と書てあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 り。あつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 撃砕つて死してあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 切なくあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ
 おまどく起請とあつらへく居るのいぢひのいぢひ。あつらへ

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

そらぎ。送よ（まの）とを把（とり）へし。懐（なま）へを枕（まくら）する。
 とたよ。今を（いま）神（かみ）の。かまを（かま）うらた約束（かぞく）しく枕（まくら）ぶ。
 もうの（もう）まぬ。賤（しん）とわや（わ）とまひ（ひ）く。髪（かみ）とを（を）ばへ
 ひきよ（ひき）せて。コサ（こさ）みぢり（ぢり）え。期（き）二人（にに）が起（おき）精（せい）まを（を）も
 把（とり）の（の）しで。毛（け）の（の）上（の）の（の）爪（つめ）の（の）垢（あか）も（も）互（たが）よう（よう）と（と）も
 り（り）の（の）一生（いっせい）夫婦（ふうふ）の（の）ま（ま）と（と）る（る）。そ（そ）れ（れ）も（も）期（き）る（る）
 だ（だ）と（と）あ（あ）る（る）も（も）ま（ま）と（と）わ（わ）う（う）。よ（よ）え（え）ば（ば）事（こと）人の（ひと）の（の）ひ
 む（む）と（と）。祝（いわ）言（げん）と（と）ま（ま）と（と）る（る）。一（いっ）所（しょ）も（も）寤（ご）ま（ま）の（の）枕（まくら）と（と）る。

せ（せ）と（と）わ（わ）入（い）の（の）と（と）い（い）う（う）。野（の）が（が）コ（こ）サ（さ）起（おき）精（せい）まを（を）把（とり）て居（ゐ）る。
 誰（たれ）が（が）ま（ま）と（と）ち（ち）ま（ま）る（る）の（の）ち（ち）色（いろ）ど（ど）と（と）射（あ）へ（へ）の（の）た（た）れ（れ）後（ご）入（い）。
 そ（そ）う（う）と（と）て（て）そ（そ）り（り）や（や）俗（ぞく）よ（よ）い（い）る（る）麻（あ）律（りつ）と（と）う（う）い（い）ん
 の（の）ど（ど）。サ（さ）と（と）く（く）そ（そ）ら（ら）ち（ち）く（く）よ（よ）ん（ん）ま（ま）と（と）射（あ）へ（へ）の（の）た（た）れ（れ）後（ご）入（い）。
 の（の）う（う）人（ひと）翠（すい）が（が）自（みづか）と（と）ん（ん）つ（つ）あ（あ）り（り）と（と）た（た）。髪（かみ）の（の）完（かん）尔（に）の（の）ま（ま）
 お（お）う（う）よ（よ）。そ（そ）う（う）と（と）て（て）私（わたし）が（が）先（ま）刺（さ）中（ちゆう）と（と）て（て）些（ち）と（と）い（い）ま（ま）る（る）
 て（て）い（い）と（と）ま（ま）と（と）あ（あ）い（い）。私（わたし）と（と）う（う）と（と）も（も）形（かたち）を（を）ま（ま）る（る）の（の）
 不（ふ）認（にん）の（の）ま（ま）と（と）ん（ん）あ（あ）う（う）ア（ア）と（と）わ（わ）り（り）人（ひと）さ（さ）ん（ん）の（の）と（と）愧（か）ん。

元 貞 切 下

五



利久留満豆と吟あがり 念へしむる方々の自達
 の歌守りと一所ふ身とをなさせど 念へしむる人の
 けうこととあまんとあめをいませりト 念ひしむる
 播磨のかみかく時辰移すかどよ 又りや人のあ
 考すれば 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 ありきぬあをと 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 世ぞ是なるけきかて 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる

やせあぐこそるひーが 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 とめがええ玉の然の 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 にあやぐ一生の 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 の病も念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 ありきぬ 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる
 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる 念へしむる

洞も出ぬやぶ。狼狽屠る女房や翠もふの三
 人の捕ものまにをもはのく。おちの寝入ぐさの
 かりぬ。ころる成い。一何よぞんトませむと。
 平甚きより。く。堅い。あつく。人のの。あを。
 盗まぬ。あつる。老ぞん。せり。せぬ。何人の。作みん
 せ。お捕方。ふぞんト。ません。定めて。これ。人。あ
 ひで。ごころ。ませろ。ト。せむ。あ。捕もの。眼。死
 知く。あ。あ。く。と。吼。面。ま。く。罪。あ。老。ぞ。死。たり

と捕へて。あ。あ。ま。あ。の。え。定。る。あ。何。人。あ。る。に
 よろ。く。縛。ら。せ。る。あ。の。茂。佐。平。あ。り。あ。や。翠。六。傳
 女。見。せ。お。り。て。あ。独。り。首。ま。く。あ。る。も。こ。ん。ま。飲。う。ら。
 せ。く。あ。あ。く。茂。佐。平。あ。り。つ。く。あ。あ。あ。ト。一。何。あ。あ。
 く。妻。子。と。つ。死。の。り。く。進。ま。り。ま。く。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 氣。も。ま。ま。え。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 良。人。が。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

真にいつぶらあるとくそつて前後不覚ふあは
りしん。理せめて良きなり。折うる母共の
小ははを人必平三も内系今のふあひん
の内々貴さあそちかそのかうん。良かろのがあひん
さふ内野といつて皆そのの。他人に決していふ事
を言はれくそまのまをちを居せん。そのく大ま
金子はく。御いふうのこまをせんがま。共たが
後とも。禪合女鬼どもものひまうて下まのま

母の良。入るより。製がせりつて。母さあろおさ
さあ。あふあうま。一と。卒とやうお知入。多
あやうと。牙と。震。一人目も。愧。と。怒。中。く。目。と
斗り。小。泣。も。せ。六。母の。女。鬼。と。い。ご。た。と。母。と。う
ア。も。や。く。ぶ。あ。い。因。果。う。あ。い。が。目。ご。ら。律。義。な
ど。さ。あ。る。が。盗。物。と。志。つ。と。や。う。知。つ。て。中。大。を。な
掃。箒。と。活。き。て。あ。入。る。連。累。帯。と。い。ふ。や。う。の。ひ。れ。それ
由。是。この。急。事。さ。あ。ふ。ぶ。え。く。ま。び。た。し。と。う。や。

元良刀下

一三

此れ方あがありまずいふ。いづまるま律あるまらの老あ又
 よまりま兼あ初あであ活あひまずまがあ何あといふまにあもあ女あ人あのあ知あ
 へあやあ逃あぐあまあずあひあ。かあをあ合あといあふあらあふあゆあ。延あ引あかあぬ
 此あ方あのあ親あ司あ。かあらあああひあるあまあのあ首あがあああらあうあ。ああらあ一
 おあとあ少あのあ地あ獄あのあ沙あ汰あもあ。ナあ。合あまあとあいあふあらあうあらあうあ。
 二あ百あ両あのあそあのあ金あとあ盗あずあとあ人あへあ償あああてあ。百あ両あとあ金あ
 とあれあのあ。官あ人あへあはあらあふあらあうあ。由ありあ許あさあれあてあかあらあむあ。
 何あとあいあふあもあ兩あ方あであ。三あ百あとあいあふあ大あきあん。

調あひあ方あがあむあづあじあうあらあうあ。夫あがあああけあまあ六あ茂あ佐あ平あがあ命あの
 ぶあもあ佐あうあぬあ。首あのあおあちあるあ。罪あ人あがあ何あとあいあふあとあ金あがあああらあうあ
 とあまあ。生あらあれあやあうあ苦あいあああけあまあとあ。今あいあふあらあふあらあうあ三あ百
 女あ調あひあらあむあ。下あさあらあれあどあいあふあらあふあもあ。三あ百あとあいあふあと
 いあふあ大あ金あとあいあふあらあふあらあうあとあ生あきあ心あ地あのあああらあうあ
 のあトあ女あ児あがあ脊あ小あのあほあのあ。口あ説あああげあくあぞあらあうあ
 ありあ。みあどありのあ涙あとあ井あぬあぐあひあてあ。まあずあらあうあちあひあひ。

「おまへさまがうらぐの^{ごんせう}に^{ごんせう}ゆるお初^{はつ}母^{はは}より
 ざくごうけ^{あり}あり。有^{あり}きも^{あり}母^{はは}の^{あり}も。お初^{はつ}の^{あり}初^{はつ}
 つた^{あり}ま^{あり}せぬ。ざん^{あり}と^{あり}連^{あり}の^{あり}の^{あり}お^{あり}ま^{あり}り^{あり}ふ。さ^{あり}く^{あり}ま^{あり}多^{あり}成^{あり}
 今^{あり}あ^{あり}く^{あり}お^{あり}連^{あり}あ^{あり}され^{あり}て^{あり}下^{あり}さ^{あり}ま^{あり}さ^{あり}ら^{あり}う。二^{あり}百^{あり}兩^{あり}の^{あり}その^{あり}
 金^{あり}の^{あり}耳^{あり}成^{あり}そ^{あり}ろ^{あり}く^{あり}せ^{あり}ま^{あり}せ^{あり}ら^{あり}う。何^{あり}と^{あり}ぞ^{あり}お^{あり}教^{あり}ひ^{あり}や
 才^{あり}及^{あり}ト^{あり}た^{あり}の^{あり}こと^{あり}を^{あり}言^{あり}て^{あり}ま^{あり}ら^{あり}く^{あり}師^{あり}所^{あり}よ^{あり}ふ^{あり}云^{あり}か^{あり}り^{あり}と。
 陸^{あり}守^{あり}こ^{あり}ろ^{あり}が^{あり}射^{あり}ら^{あり}り^{あり}て^{あり}老^{あり}父^{あり}ど^{あり}の^{あり}と^{あり}今^{あり}あ^{あり}く^{あり}つ^{あり}ね^{あり}く
 本^{あり}も^{あり}あ^{あり}ら^{あり}な^{あり}だ^{あり}お^{あり}つ^{あり}う^{あり}や。こ^{あり}の^{あり}師^{あり}所^{あり}の^{あり}申^{あり}ら^{あり}ふ。

平^{あり}ら^{あり}を^{あり}ふ^{あり}ら^{あり}り^{あり}も^{あり}今^{あり}ら^{あり}ふ^{あり}。そ^{あり}の^{あり}其^{あり}く^{あり}ゆ^{あり}ら^{あり}ぬ^{あり}の^{あり}事^{あり}ど
 つ^{あり}せ^{あり}て^{あり}の^{あり}身^{あり}ど^{あり}も^{あり}速^{あり}疾^{あり}に^{あり}一^{あり}女^{あり}子^{あり}の^{あり}身^{あり}ど^{あり}も^{あり}た^{あり}る^{あり}こ^{あり}方^{あり}
 へ^{あり}何^{あり}の^{あり}こ^{あり}の^{あり}事^{あり}も^{あり}ま^{あり}せ^{あり}ら^{あり}う。速^{あり}に^{あり}あ^{あり}の^{あり}こ^{あり}も^{あり}あ^{あり}げ^{あり}す^{あり}け
 くら^{あり}き^{あり}一^{あり}そ^{あり}う^{あり}ら^{あり}ひ^{あり}の^{あり}あ^{あり}ら^{あり}の^{あり}色^{あり}の^{あり}ふ^{あり}ト^{あり}ら^{あり}ひ^{あり}は^{あり}あ^{あり}ら^{あり}く
 母^{あり}お^{あり}や^{あり}う^{あり}コ^{あり}ロ^{あり}ク^{あり}嬰^{あり}お^{あり}ま^{あり}り^{あり}ら^{あり}う。あ^{あり}ら^{あり}ま^{あり}さ^{あり}る^{あり}後^{あり}の^{あり}う^{あり}あ^{あり}ら^{あり}
 あ^{あり}い^{あり}づ^{あり}大^{あり}金^{あり}の^{あり}お^{あり}う^{あり}け^{あり}合^{あり}し^{あり}と^{あり}。そ^{あり}の^{あり}出^{あり}身^{あり}の^{あり}い^{あり}た^{あり}ら^{あり}の^{あり}
 目^{あり}形^{あり}の^{あり}迷^{あり}惑^{あり}の^{あり}さ^{あり}ら^{あり}と^{あり}あ^{あり}ら^{あり}の^{あり}罪^{あり}も^{あり}し^{あり}ら^{あり}く^{あり}あ^{あり}り^{あり}
 及^{あり}た^{あり}め^{あり}ら^{あり}う^{あり}ま^{あり}と^{あり}成^{あり}ら^{あり}ひ^{あり}ま^{あり}し^{あり}ら^{あり}う^{あり}や。い^{あり}ま^{あり}く^{あり}そ^{あり}の^{あり}事^{あり}



記
録
初
六

河
魚
初
六



移うつ不ずもも些ちと了り簡かんがありままくく。おお氣きづづいいああままのま
 ままるる。ままおお官くわん人にんささるるまま平へいささるるまま。今いまおお移うつがひりりここ
 ささりり。おおままららひひ下くだりりまませせ。おお説せつ極ごくつつここ
 ああるる。後ご刺しのの家やのの茂も佐さ平へい成せい。つつままててああるるののままままのの
 工こうそそんんああるる。姉ね所しよへへまま平へいささるる。ままままとと後ご不ふ向むかひひまま
 甘かんううトト別べつままををゆゆららゆゆととええかかくく。母ははののみみぢぢりりににううちち
 ぢぢりり。母ははととああままととままららののままららににああままくくととううけけああままらら。まま
 どうどうししとと今いまののままああんんととままああるる。そのその移うつ不ふああつつくく。おおまま

東あづまとといいふふののままららもも海うみままんんががトト眉まゆ頻しんじじとと妹いもうとののおお
 今いまもも假かりしし不ふ安あん心しん。ままああののままええままららとといいてて。そのその今いまもも
 不ふ更さらああままららままららままらら。乱らん言ごん不ふももををぢぢががああるる。いいままくく
 おおまま人にんおおままままままトトああままああいい二に人にんのの良よええとと完かん作さく
 二に人にんトトおおままああいいトトああままええるる。おおままららせせももいいままのの
 まま。ままいい成なり作しららままススののらら。昨きのう日ひおおままあありりくくああままららしし
 つつつつ。そのその時ときををままああららののせせとと。件けん田でんのの娘むすめ川がわ光みつ鶴つる人にん
 のの世よハハトトととままらら人にんががままくく。おおままののままららののままららしし。おおまま

が探せむ。多がり。おとさえん。日比うらして律儀
 おおこ。皇天さま。ゴッス。おれん。あえ
 みる。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。

あれど何とせいのふも。客長人の。懸念。あえ。あえ。
 子のや。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。
 おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。おれん。

沓魚夜下

昔に^ま先ハに^ま大家准后金^{きん}むせ人^{ひと}大^{おほ}救^{すけ}る^ま金^{かね}を^を出^だして^しお^おし
 る^まさる^まゆ^ゆく^くこの^こ鬼^{おに}が^が伊^い勢^せふ^ふ入^いり^りと^と差^ささ^さる^までも^も持^も持^もす^す
 う^うら^らそ^そり^りぢ^ぢる^まえ^えに^にお^おま^まさん^{さん}方^{かた}左^{ひだり}と^と右^{みぎ}の^の間^まの^のい^いん
 屋^やで^で紗^さ綾^{あや}ち^ちり^りの^のい^いん^んの^の肩^{かた}が^がた^たる^まこ^こい^いり^りて^て屋^やら^られ^れま^まと
 ち^ちり^りと^とえ^えあ^ある^まお^お中^{なかつ}の^のえ^えと^とお^おつ^つま^まや^やて^てあ^ある^まま^ま森^{もり}
 ト^と先^{まづ}あ^あく^くと^とて^てお^おて^てあ^ある^まお^おふ^ふ翠^{すゐ}の^のあ^あく^くと^とて^て親^{おや}の
 た^ため^めと^とい^いひ^ひが^がま^まの^の堅^{かた}き^きお^お誓^{ちか}ひ^ひの^の姉^{あね}と^と弟^{あに}の^の物^{もの}ふ^ふま^ま
 き^きて^て他^{ほか}人^{ひと}ふ^ふ身^みと^とま^まる^まま^まと^とあ^ある^まあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふ何^{なに}ふ^ふと^とい^いん

飛^{あそ}ぶ^ぶ所^{ところ}の^のま^まの^の淵^{ふち}ぞ^ぞ今^{いま}日^ひの^の深^{ふか}と^とあ^ある^まあ^あら^らひ
 の^の世^よ間^まと^とお^おち^ちの^の人^{ひと}の^の縁^{ゆかり}も^も今^{いま}の^の身^みふ^ふつ^つま
 さ^さら^らと^とい^いふ^ふ忍^{しの}ぶ^ぶと^とま^まね^ねど^ど同^{どう}ふ^ふあ^あら^らう^う洞^{どう}千^{せん}行^{ぎょう}の^の滝^{たき}
 の^の糸^{いと}連^{つら}な^なと^とい^いひ^ひぬ^ぬあ^あら^らう^うか^かう^うく^くに^にて^てか^かね^ねと
 あ^あげ^げお^おん^んふ^ふと^と一^{ひと}間^まへ^へら^らあ^あら^らう^うた^たい^いふ^ふも^も面^{おも}あ^あき^きこ^こと^と
 あ^あら^らう^うい^いり^りも^もお^おち^ちせ^せと^とい^いふ^ふ人^{ひと}に^にあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふあ^あら^らう^う
 惚^{おぼ}れ^れの^の丘^{かみ}夫^{おとこ}婦^{めかけ}と^と起^{おこ}精^{せい}手^てを^をと^とら^らう^うと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふあ^あら^らう^う
 の^の泡^{あわ}と^とま^まえ^えゆ^ゆく^く世^よの^の人^{ひと}姉^{あね}に^にう^うら^らう^うの^の妹^{いもうと}の^の後^{あと}と^とい^いふ^ふ

否いなでいららるる。こころの儀がらの事こと人ひとと配あはて申ます
くうしてえ。ぢうさるや母ははさぬふも。おれのこと中なかつておれ
くぶが身みの強つよ奪うばをともぎく。ぢうの良よきぢていれ
かう。起あ清きよもおまへよ護まもらる。いふりて路みちで母ははさぬ
小こも。おまへいりかてまの身みの強つよひ。ぢうぞ怖おそくそ
くまていふも。誠まことの姉あね妹いもうと。あもりのまねあまの
跡あとぢうあう起あ清きよの文ふみ妹いもうとよ。こころぢうぢうふ
と回まわ答こたもあへぢうぢう。おれふの洞ほらありなすひ。

そうと云いふも。今いまの今いままで。おのひおまへの思おもひ氣きが
不ふ測そくふをぢうよくあつて。こころの異あるをまゝいふ。
ぢう切きでのことと。ぢうそ居おふ人ひとぢうぢうぢう。
人ひとにあつて。え。をまへぢうぢう。ぢうといふもあつ
ぬ。この強つよ動どう。それを付つておまへぢう身みと勤こ奉ほうも同どう
ぢうらる。妾めかけゆけよあつてぢうぢう。ぢうぢうお方も
悔くしう。姉あねのぢうぢうの姉あねとて。吾われ儕せいよあんと
ぢうぢう。そんぢうぢう。おまへぢう吾われ儕せいがぢうぢう。准あは

金三百両きんゆりあしあしの。其そ知ちにらぶらの潭合あも。
 トとりとうち積けと姉あね累かさねがいやもこうのあめ。こま
 ててみみやうここううが身にいひひ幼わらわ衆しゆがあるあるよ。おおままのふ
 送まじまじまとと。積つららののが恥ううららのまままここううが
 いいやありらととここままああふふああららててここううが心と不役
 あり。暮あれれるあららととううささななととああ。ああららああららああらら
 その尾おにつつららとと今いのあららとと協あららとといいととああらら
 ハ得と心こ甘あむむ。成なるるやや二に人にんららととああららてて時と刻くううの甘
 け

漁あままの池とあららととああららととボボままくくととああららととああららととああららとと
 湖うままああららとと長あいい別べ離り若わかかららああららとと外とのあららととああららとと
 ちちととああららととああららととああららととああららととああららととああららとと
 人にんああららととああららととああららととああららととああららととああららととああららとと

錦乃魚初編卷之下終

清涼香

五十二回

そまことの業の功徳ハ第一きり成去清りかたきと
いふゆゑ中平うれしむ然のよきとつゝめり
▲まきけでたのり、痕成り名一 ▲小児のちかそたき
▲男女腹手まき成ひく輝き ▲毒却毒氣子隠れ
▲夏の下ふ今く暑除くあり ▲紙よ細く松香の付
▲常々用まが冬もいさよ由勝のまねつらりのし
たの功徳一ツこゝへ遇なり 用ひまらふ清りふはぬのまき
やのくゝと結きてさくさくすなり

清涼香

おせんのかま
一包代七十二回

此清涼香は世に数多き清涼香は一日の清涼香の後のまき
つけまきとある汗をかきしはまきし汗とある汗をかきし
ことおの後のまきしはまきし汗をかきし汗とある汗をかきし
はまきし汗をかきし汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし
汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし
汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし
汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし汗とある汗をかきし

江戸貴弘所

後草堂内馬場所問下問はる

